

写真：衣笠貞之助（1937年、木村伊兵衛撮影）



「狂った一頁」（1926）、「雪之丞変化」（1935-36）、「地獄門」（1953）・・・  
偉大な映画監督の足跡を資料でたどる

生誕110周年記念

# 衣笠貞之助の世界

Teinosuke Kinugasa: From Female Impersonator to Master Filmmaker

2006年10月3日（火）—2007年3月31日（土） 東京国立近代美術館フィルムセンター展示室（7階）

\*月曜日および2006年11月17日（土）、12月28日（土）—2007年1月4日（土）は休室 開室時間：午前11時—午後6時30分（入場は午後6時まで）  
料金：一般200円（100円）／大学生・シニア70円（40円）／高校生40円（20円）／中学生以下・障害者（付添者は原則1名まで）は無料  
\*料金は常設の「展覧会 映画遺産」の入場料を含みます。\*（ ）内は20名以上の団体料金です。\*学生、シニア（65歳以上）、障害者の方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。\*フィルムセンターの企画上映をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。  
主催：東京国立近代美術館フィルムセンター 東京国立近代美術館ホームページ：<http://www.momat.go.jp/>

東京国立近代美術館フィルムセンター  
**N F C** National Film Center  
The National Museum of Modern Art, Tokyo



写真：衣笠貞之助。新派の女形当時のもの。



写真：「十字路」(1928年、衣笠映画連盟) 撮影スナップ



ポスター：「雪之丞変化」(1935-36年、松竹)

生誕110周年記念

# 衣笠貞之助の世界

Teinosuke Kinugasa: From Female Impersonator to Master Filmmaker

本年は我が国を代表する映画監督、衣笠貞之助 (1896-1982) の生誕110周年にあたります。もともと舞台の女形であった衣笠は1917年に日活向島撮影所に招かれ、新派映画の女形として映画界への一步を踏み出しました。また、映画女優の台頭に伴い監督業に転向してからは、前衛的な無声映画「狂った一頁」(1926)、「十字路」(1928)を発表した進歩的シネアストとして、あるいは二枚目スター林長二郎 (後の長谷川一夫) を育て記録的ヒット作「雪之丞変化」(1935-36)を生んだ松竹時代劇の主力監督として、さらに戦後はイーストマン・カラーによる「地獄門」(1953)で日本映画に初のカンヌ映画祭グランプリをもたらした世界的巨匠として、衣笠は常に時代の先頭を走りながら日本映画史にいくつもの新たな頁を刻みしました。

このたびの展覧会は、衣笠本人の遺品にフィルムセンターが所蔵する映画資料を加え、日本映画が誇る《巨人》の足跡をたどるものであり、「十字路」完成後の衣笠が海外映画界視察のためソビエト、ドイツ等を訪問した際の珍しい資料も交えての開催となります。皆様のご来場をお待ちしております。



スチル写真：「地獄門」(1953年、大映)



〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6  
お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600  
東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

▼交通

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

